



路政春秋

一時間で鐵橋は引越した

東海道鐵道線路の愛知縣下猿渡川鐵橋は河川改修の爲めに河幅が十米に擴張された結果鐵橋も延長を延ばし改築しなければならぬ、だが上り下りの汽車の運轉に故障を與へてはならぬ、其の施工は時の問題で天勝の奇術以上に迅速を要するので當局は苦心した處であつたが僅か一時間と云ふスピードで鐵橋は引越した、其の方法は先づ從來の橋臺を東側に移行させ又新橋臺を嵌め込みて新しい橋脚に安置し更らに舊橋脚を破壊した、實にスリル百パーセントの工事であつた、其の鐵橋は從來の長さ二十米

であつたが譯もなき鐵橋の引越し、さすがに技術の進歩を現はしたことである、關門の海峡締め切り工事といひ、海底鐵道の施工といひ、赤間門司の海底國道の築造工事と云ひ吾等は技術界の誇りとして技術歴史に光彩を放つことと思ふ。政治上の事も時勢の流れを征服しハイスピードで國民生活の安定策が實現する方法はないであらうか。

行政刷新は窓口から 生活改善は道路から

官吏の不親切な無遠慮な獨善的な態度が國民から排撃せられ居ることは可成久しき以前からの事であつて官民離隔の主たる原

注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを書し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

因となつておる、舉國皆兵主義の下に尙軍民離隔を憂へざるを得ないと論ずる者がある世の中に官民の離隔夫れは官吏生活の資は國民の負擔に俟つと云ふ意識と平の國民は被治者で官吏は治者であると云ふ意識との摩擦は存外に發生し易いものだ、夫れ故に官民意思の疏通が妨げられ行政の成果が擧げられないのである、今日の場合先づ此情弊を打開しなければならぬと云ふので行政の刷新は窓口からと云ふ標語まで作らるゝ如くにお役人の頭の改造が企てられたと傳へらるゝ、寔に以て難有ことであるが頭の改造だけでは坊主が毛をはやした位に過ぎないこととなる恐れがないであらうか頭の改造も大切だが魂の改造からでなければな

らないではなからうか路床から改築しなければ舗装丈けでは夢の如きものである、どうしても根本的に堅牢な道路が築造せられなければ生活の改善は期待されない、事の道理はソレナノニ、ソレナノニ？

ありやなしやの珍聞

奇譚 (4)

○樹齡二百年の茶樹 静岡縣磐田郡大藤村宇大久保農鈴木多三郎並に佐田市太郎の兩家に樹齡二百年餘の縣下に珍しい茶の老樹のあることが判つた、同郡南部茶業組合検査員出張實地調査をしたがその茶樹は何れも今年一番茶摘採後の高さ七尺、直徑九尺、幹根元の直徑二寸五分といふ驚くべき大きなもので鈴木方のものは五本の木が集まつて一株となり張透しになつてゐる、又佐田のところのものは大きな一本の木で施肥が十分に行届いてゐることと、從來三番茶を摘まなかつたため樹勢は今尙頗る旺ん

で而も將來伸育の可能性さへある、昨年の收獲高は双方とも一番茶五貫目、二番茶三貫目合せて八貫目の大量生産、その製品は上々で申分ない好評を博してゐるが今まで秘められてゐた茶の名木を發見したと云はれて居る。

○蛙と田螺の鬭争百時間 茨城縣鹿島郡沼前村の一農業者が野良に行く途中水田の水を盛んにはね飛ばしてゐる數匹の蛙群を發見、何事ぞとその面白さに見とれてゐると水中に孤軍奮鬪の田螺と息詰まる大合戦なのだ、田螺は半身をむき出して力戦又力戦すれば蛙群は伏兵をも擁して包圍戦、見から懐慘な景に啞然としてゐるとその中の一匹が田螺にパクリ足をやられた田螺も蛙も必死だ、他の蛙は驚いて四散、かくて兩者の決鬪は續く、一日經つても二日經つても……水棲物の水中の戦争には勝利がつかなくつたが九十八時間目になつて片足を物凄い力で咬まれてゐた『殿様』が完全に

のびて終つたと云ふ譚である、名前は偉さうな殿様蛙でも黙々として泰然自若として力強く生活する田螺の如きものには打ち勝ち得ない、いばるばかりを能事と心得ふる者の反省すべきはここだ。

生活の改善は銃殺の

首途？

ソ聯ロシヤでは最近ハイスピードの處刑が行はれた、夫れはトハチエフスキー元帥外七名の要人が逮捕され最高軍事裁判に付せられ、キエフ條令に依つて宣告せられ、銃殺の刑を執行せられた、其の間二十四時間を出でない、スピード時代とはいへ鐵血的政治の非常手段としての非人道的な無殘極まる仕打は全く世人を驚かした、獨裁官スターリンは一年前——生活はより善くなつた、仲間達に生活は前よりは一層楽しくなつたぞ——と宣言したのである、憲法は發布せられたが何處にも言論の自由は存在

しない、秘密探偵網は隅から隅まで行き届いて居る、宗教は無視されて居る、テロリズムは容易に行はるる、獨裁官の意に従はぬものは反逆者として取扱はるゝ、何處により良き生活が存在するか。ソ聯は如斯状態であつて獨裁政治の害毒は暴露せられた、隣邦支那に如何なる影響を及ぼすか、友情は親善は何國が破壊せるかと高唱する中華民國國民、大學の教育は男女共學主義を實行し特殊的女子教育は低級なり敢て遊學するの要なしと宣傳する民國の教育家、躍進的精神に燃ゆる若々しき思想を多分に把握する隣邦は如何なるコースを辿らんとするか、國內的摩擦を解消するを先決問題とする。近衛内閣はさすがに着眼すべき處に着眼したが摩擦を解消し得るの途は對立的相手を萎縮せしむるを捷徑なりとする意圖はなきや否や銃口の向け先は北か西か或は東か夫れとも……とにかくテロリズムの變異が年中行事の如く繰り返されては國家は

安全でない、無理なる政治は國家を危極に導く、他山の石は at Hand! 上下分離、左右激突、混亂、低迷、自覺と反省とを置き忘れたる状態を眺めなければならぬ途から遠ざかることが緊急、緊急、大緊急である。

野花薫る里の乙女の

ユニフォーム

血腥き悲慘事の絶ゆることなき此頃の新聞は之れでも生活の安全道ありやと疑はる情報の裡に東朝紙上之れは實に明朗爽快な報道記事がある、——福井縣今立郡代表北日野村女子青年團は名團長の譽高き加藤千里女史を慈母と仰ぎ親身も及ばぬ愛に結ばれ若き日をひたすら修養と奉仕の感激に送つてゐる、村全體に溢れる敬老思想もよく女子青年團員が中心となりリードし昨年六月廿日の敬老會の如き七十歳以上の高齢者を招いたところ欣然百六十名以上の出席

者を見、中にはリヤカーを仕立てゝ来る者もあり終日乙女達のサーヴイスに満足、家に歸るのを厭ふ位、七十歳になるのを指折り數へて待つ高齢者も多いといふ有様である、保健と榮養の關係に着目、三年來の農村向き榮養料理講習會は果然好評噴々郡中最下位にある同村榮養統計をして断然上昇水準を辿らしめ由來在郷軍人會總會、防空演習などの諸會合には兵站部を一手に引受け銃後の守りを全うしてゐる、このほか生活改善の目標の下に保健衛生の映畫會、座談會を催すほか學校衛生に助力し障子の貼替カーテンその他用具の洗濯などをし、また同村永年の惡習「萬年床」も近時漸く跡を絶つに至つた、毎月婦人修養雜誌の同覽機關誌の發行、意見發表會を開催、夜冬の休暇を利用して實用的な裁縫講習會廢物利用、染色研究會、作法實習會などを催して修養に勵んでゐる、博愛互助の精神は遺憾なく發揮され渡滿兵家族を慰問して何くれ

となく世話をし梳毛、銀紙などを蒐集しての國防獻金も毎年十圓以上になつてゐる、團の基本金も五百圓に達し毎年の行事も利子とバザー純益金で行ひ、村の財政を助けなほ飲食兒童への補助まで行つてゐる。かくして華美を避け虚榮に陥らぬため夏冬兼用の節約ユニフォームに身を固めた團員は全村信頼の的となり美はしき雰圍氣を充満させ女青獨特の役割を大いに發揮してゐる、團長加藤女史の獻身的努力と人格に育まれゆく百五十の若き生命こそ恵まれた青春歌を高らかに口吟み意義ある若き日の一頁を乙女の感激に繰込んでゐる。

企畫廳は？ 五箇年計畫は？

企畫廳は、五箇年計畫は、滿洲國でもソ聯ロシヤでもやつておる、最近日本でも企畫廳が組織せられ其處にはババイズムにすべきかヒロタイズムにすべきか近衛首相は

相當苦心されたものと見らるゝがヒロタイズムで進んだ方が安全の途であるとか考を定められたのである、五ヶ年計畫は將に樹立せられんとして居る、願くは總てに於て好結果をもたらせ給へと祈るのである。ソ聯ロシヤの夫はとうからトロツキーとスターリンの爭覇戦も随分永く續いて其間少からぬ悲惨事非人道行爲が行はれトロツキーは敗賊の身となつたが争は今尙安定しない、カーメネフ、ジノヴィエフ一味の處刑、ラデツク、ヒアタコフ其他領袖輩の銃殺、大れに今回のトハチエフスキー元帥、ヤキール將軍、ウボレウイツ將軍、エイデマン將軍、プトナ將軍、コルク將軍其他の要人八名の電光石火的銃殺等皆トロツキストとスターリニズムとの激甚なる摩擦の現はれである。ソレダノニ企畫廳の仕事は着々進歩し五ヶ年計畫は日々遂行せられつゝあるが、ソ聯ロシヤは一種の伏魔集團である。滅私奉公國民との等差や如何。

物も聞き様で斯うも

なる？

春と秋とは暑からず寒からず肌に適するに於て相同じく、而して氣分に及ぼす影響に於て甚しく相違ふ、夏と冬の如く正反對なるに非らず、同中異あり異中同ありとかや。A「君過日の帝鐵に於て開いた小委員會の審議振を聞かして呉れないか、B「話してもよいが別に話さなくてもよいぢやないか、A「イヤ同中異あり異中同ありだからね、B「君はどうも僕達には判らない文句を知つて居るぢやないか、何「Aも譯はないさ、時計の音が西洋人にはチクタクと聞へても吾々にはコツコツと聞ゆるぢやないか物も聞き様があるからネ、支障なければ聞かして呉れ給へ、B「妙に言外に意味がありそうだけと秘密會ぢやないから話さうか夫れは斯うだ「議題第五の内、路面の光り反射度及吸收率に對する島田、伊藤各委

の貴重なる各實驗報告に就て検討し、結局
 推奨照度の標準としてはコンクリート舗装
 を基礎として採擇するを適當と認め、之に
 因つて實驗報告の内容を整備の上第五部委
 員會に提示意見を求むることに決定した、
 A「イヤどうも有難う夫れですつかり判つ
 たB」詳しいことを聞きなければ委員に
 聞いてあげるがまあ斯んな程度で許して呉
 れ玉へ失敬、A「重ねて難有インテンシ
 生もハツキリ判るぢやろう。(終)

鯉の子とめだかといづれ

苗代田

地界の争ひとなる

柳かな

夕釣りのピク空しきに

月見草

巴

路政春秋

青嵐やせゝらぎ通れ肘枕 初聲
 青嵐や松離れ飛ぶ鷺白く
 蝸牛と蛸蝓いづれ賢愚なる
 豆投げし蝸牛の子や塀の雨
 温泉煙りの月待のとあり時鳥
 鶉繩繡ふ鶉匠の宿や雨の窓
 百合の香の可笑しき鼻の花粉かな
 手を伸ばせば百合に届かめ汽車緩し
 山路とぼく笠に雫やねむの花
 奇峯くづれて汐に流るゝ夏の雲
 温泉煙りの立ち登り島は梅雨はれて
 雨雲の飛び散つて庭の松の花
 五月雨晴れ温泉の町眠る朝ありき
 巴 藤